



国労仙台

No. 2562
2009年9月5日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

運輸協議会定期委員会

厳しい労働条件と闘う

仙台地方本部運輸協議会(運輸士・検修)は、7月18日、こくろう会館において定期委員会を開催し、各委員の真摯な討論から当面する諸活動の取組みと闘いの意思統一を行った。

委員会は宮本副議長の挨拶で開会し、座長に郡山運輸区の大和委員を選出し議事が進行された。

委員会では各委員の活発な討論と質疑答弁などが行われ、新役員を選出して最後に、三塚議長の団結頑張ることで閉会した。

座長就任あいさつ

ダイ改・駅無人化・ワンマン化・設備メンテナンス等、年々合理化でどこも要員が厳しい。

仙台運輸区では4・6両のワンマン運転による労働強化と乗客は戸狭みの恐れ。鉄道での暴力事件は07年が470件、08年では452件。駅無人化やワンマン運転など、人員合理化に起因か。

福知山線脱線事故では、JR西日本の三役が更迭・逮捕・社長が辞任。(営利優先による)スピードアップと安全無視が原因。

地方代表者会議
第77回定期全国大会
第24回地本アスベスト対策会議
東日本本部書記長会議

地本アスベスト問題学習会

九月十七日(土)十三時〜三時 会館 六階

人が回らず技管が泊まり勤務に。人を出して職場が回らなくても補充なしは納得がいかない。日勤をしながら2徹、指摘をしても改善せず。

車両故障に必要な部品が無い状況。故障対応を後回しにし、そのまま走らせているのが現状。

検修に助役2人いるが仕事は二の次、イベント等必死に。仕事に対する意見に耳を傾けず、現場対応で助役は飾りか。今回区長が代わり、挨拶で「人を大切にしろ」と。強制配転者、遠距離通勤者、単身赴任者は、心身共に疲れており改善を。

佐々木委員
(仙台運輸区)

小牛田でポイント制限35kmで通過。現在、乗務員試験の時は「出発進行」でノッチをフル(5ノッチ)に。その延長線上にあった事故。

ブラックボックスから引き出したデータでは運転中に何処で非常ブレーキが掛かったかわかる。701・719には、ATS P Sが、721には、モニターが付いており全て記録可。いつ車掌がどのドアを開

いたか全て求められ、運輸士はデータで丸裸に。そのためATS PやATS P S。その観点から、我々も保安装置についても勉強を。

事故を起こしているのは、下請け、孫請けの人。不十分な教育で作業に就く。ここに事故の芽がある。運輸・検修職場は、下請けが本体を支える構図。三年前、幹総で塗装の下請けの人が死亡事故。法律的な面だけでなく考えていかないと。仙台運輸区では車掌を含め女性は50人。運輸士見習いには、先生として少し前に運輸士になった人を付ける。車掌も同じ。技術継承と言いつつ、人を育てる時にこの手法。理由は誰でもやれるという体制の確立。だから車掌も簡単でなければダメ。そして生産力を上げる観点。ここには安全も

長い間本当にお疲れ様でした

岡崎均さんに「感謝する会」



地方本部は8月7日、仙台ガーデンパレスにおいて、本年7月末日を持って定年退職された、地方本部書記の岡崎均さんに「感謝する会」を開催した。主賓の挨拶として岡崎さんは「多くの苦楽があった。特に分割・民営化の時は、様々な意味で苦勞をしたが、皆さんに支えられて定年まで働き続けることが出来た。今後は体調を整えまた皆さんとかかわりを持っていきたい」とお礼と感想などを述べた。

会には歴代の地方本部役員の皆さん、国労会館や交通共済の皆さん、また



技術継承も無く、会社の経営方針上の問題のみ。ここを追及しなければ。

支社の実行計画。社員は年令別構成人員がグラフに。大きな山が無くなるのが後10年、ここに国労が居る。10年後、どう生産を維持していくのか。経営ビジョンが10年スパンで出てきた意味だ。本社の経営ビジョンの中には「創造的破壊」の表現。かつて議論したスクラップアンドビルド。意図的に使用しており、そのスタンスに立つて物事を考えチャレンジしろと。ここに合理化の全てが集約されている。国労と和解せざるを得なかった理由をこのグラフは全て表している。

仙台支社は本社の実験台化している。アクセス線も含め、車両の作成もいろんな条件を詰め込んで作らせる。データ化し何処かで展開していくスタンス。ただ大急ぎでやっているため弱点もある。それは我々がやってきたワンマン反対。工場に部品がない。都度発注し部品が届く。そういう矛盾点を突き詰め積み上げていくしかない。会社はシステムを変換し、大変大きな合理化を考えている。

乗務員はCSで上げられたり、添乗されたり。助役は列車で通勤する場合、その列車の乗務員のチェックを定期的に求められており、その積み上げで評価がされる(5段階)。特に集中しているのが427M(仙台利府)で、苦情件数は抜

きん出ており運転士・車掌は監視されている。ストレスが激しくなり、2人の女性運転士が誕生したが、1人はうつになり病休に。車掌を1年以上経験した人、必ず運転士の試験を否応なし受けさせられる。結婚・出産など女性に関する問題は更に出てくる。女性に対して会社は冷たい。これも弱点。この辺の事を皆でやっていきたい。

我妻委員 (仙台電車区)

4月にポテンシャル1名が配属。分会で花見を計画、平成探の11人全員に案内状を出したが、東労組からクレーム。平成探の人は我々と一緒になって仕事をしており、仕事上は距離を置けないため心中複雑だと思つた。新型車両が導入され3年。車両不具合が目につく。ブラックボックス化されてノーマンテナンス前提だが検修側では大変。部品がすぐに入ってくる状況になり。701系の床下機器の取替で、6月末に出した車両が1週間も出ないでパンク。原因追及、犯人探しの事情聴取で、数日前から大騒ぎ。問題は突発的な作業のためマニュアルもチェックリストもなし。会社はこの間ISOを推進してきたが、実際に直面すると何もできず。

郡総が母体で、我々区所は派出。郡総では今年4月に外注化、そこに社員が向。検修の全面外注化で本

社からゴーストが出たと聞く。後4〜5年すると検修の主体的な退職。エルダー等で活用を図ることを考慮すれば、外注化しながらそこに向か。

ここ3年〜5年の平成探が中心になり検修が回されていく状況。熟練工は外注化され、技術力の伝承にならない。車両もそのようにしなければ対応できない事態も。車両センターいつ丸ごと外注化されてもおかしくない状況。自分10%カット。今後10%カットの組合員続く。より快適な車両を提供するという主旨から外れている。そうしたものの闘いが我々国労に求められる。

古川委員 (仙台電車区)

交番検査。社会人採用の見習いが全々はかからない。原因は頻繁な研修、パワーポイントの講習とか、仕事とは関係のないことで時間を割かれ、本来の仕事が身に付かない状態。結果として要員不足に。健康診断が始まるが、人が回らず健康診断に行けない人も。技術伝承を考えていないのでは。去年の新採は技管に上がり、事故屋を担当。昔の事故屋・電車の神様と言われるような人が担当している部署。そこへ1年で技管の事故屋。行った本人が一番プレッシャーを感じてストレスになっていくと聞く。安全安定輸送、安全な車両の提供が出来るのか。

黒羽委員 (郡山車七警東派出)

郡山派出から藤田香さんが小牛田運輸区に。郡山と比較し業務量が多く大変だと。小牛田運輸区との交流会を検討したい。昨年国労に加入した小田さん。今年3月から足腰が悪いために3ヶ月間病欠。6月1日から職場復帰し軽作業に。小田さんはビジネス駅ネットを希望しており戻すための取り組みを協議会と地本に要請する。

本田委員 (会津若松運輸区)

若松派出は17人で回している。要員不足。要求しているが改善されない。検修合理化の噂。関連会社の話しでは技管以外は全分外注とか。郡工は昨年より仕事が増えたり増しでその分外注に。外注にするから人も行けと7〜8人やられている。若松も技管以外はそうなるのでは。若松の将来展望は、今後車両の外注化は進むと思つた。エルダーも含めて。同じ社員であつても、本体と外注では休日等労働条件が低下する。外注の労働条件を上げなければ、嫌気をさして辞める人が出る。今でさえ55・58歳で辞めるという人がいる。エルダーで郡山に採用になった方。早出があり一番列車で間に合わず。アパートを借りて単身赴任で対応しろといわれたが、直談判

菊地委員 (小牛田運輸区)

郡山から佐藤勝雄さんと同時に配転されて来た人が7月1日付けで地元に戻った。和解したと言つても差別はある。同じように帰れる取り組みを。職場は要員不足。宮城Dで陸羽東線にS1走ったが要員が取られ大変だった。また具体的な作業指示がないのに、名前を貼り付けられ、分からなくても仕事に就くしかない。本来業務が回せないくらい忙しかった。別要員を確保する取り組みが必要。

組織拡大は難しい。福島での国労の組合説明会は良いと思う。各職場で説明会が出来ればなお良い。国労組織の現状は厳しく、活動を縮小してもらいたい。個人的負担が大きくなる。

発言に対する答弁など

佐藤勝雄さんの件。地本へ伝えてあるが解決していない。引き続き早く戻れるよう働きかけて行く。現場の助役は仕事に精通しておらず、技術管理に仕事を任せており責任を持っていない。正さなければならぬ。藤田さんの件。まだまだ公正公平な人事ではない。実感がわかない。地本で検討を。新人教育。入ってすぐ1本にさせられた。全く教育や訓練ない。10年位前までは1人ひとりサポーターを

休勤が多い。要員を増やすためには休勤はやめよう。運転士もそうだが特に車掌は各職場である。いつも大会では運転士が少ない。検修職場の疑問点はかなりある。役員会で煮詰め、上部機関と連帯しながらエリアの運協と交渉に上げていく。

つけて1年間みっちり指導をした。今は急速仕上げ、数ヶ月で頭数は我々と同じ。小牛田では競技会に引張り出されている。現場長の成績を考慮したものの。本人達の勉強の結果を望んだものではない。

新役員のみなさん

- 議長 二塚 昇
- 副議長 宮本 広美
- 副議長 青砥 淳泰
- 事務局長 日下一雄
- 副議長 新庄 運転区
- 副議長 仙台車両センター
- 副議長 山崎 享
- 副議長 小牛田運輸区
- 副議長 佐藤 正彦
- 副議長 仙台車両センター

技術伝承。国労は東以上に考えている。そのことで4月に団交。会社は認識し

貨物宮城分会

石綿検診で病巣発見

内海清夫さん逝く

石綿検診で異常が発見され、翌年一月に手術を受けていたが、今年6月に入院していたが、今年6月に入院した。内海さんは昭和55年4月、国鉄仙台機械区に入社し、同年12月には小牛田検査班に異動。昭和62年4月、JR貨物仙台施設区(現仙台保全技術センター)に配属され現在に至っていた。